

V シート 防水工事

施工要領書

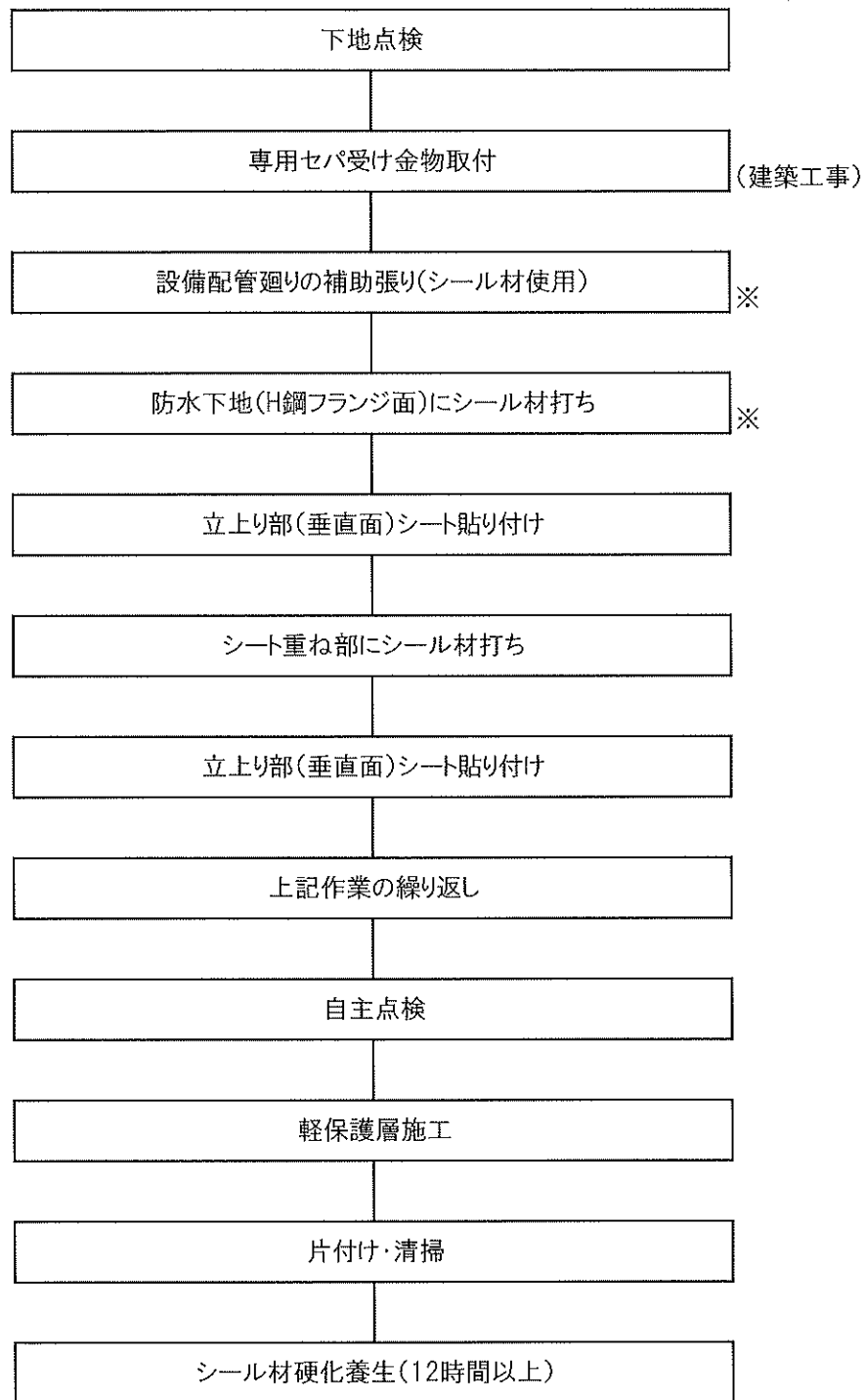
KS-B1工法

(山留面先やり工法 シール施工)

ケイエス防水工業株式会社

1. シート防水工事(KS-B1工法特別仕様地下先やり防水 シール材使用)

1-1 Vシート防水 B1工法 施工フローチャート



※ 補強貼りと立上り部のシート貼りは作業の流れにより順序が前後する場合があります。

※ 腹起しがある場合、撤去後、上記フローチャートに従って作業が繰り返されます。

1-2 防水工法の種別

VシートKS-B1工法 特別仕様地下先やり防水 シール材使用

工程	施工内容
1	防水下地にシール材点打ち
2	Vシート張り付け・各所押え
3	Vシート重ね部にシール材打ち
4	Vシート貼り付け・各所押え
5	Vコート(ポリマーセメント系塗膜防水材塗布・軽保護層)

1-3 使用材料

①一覧表

品名	商品名	規格、内容量	メーカー
シール材	MSシーラントNB	333ml/本	(株)東郊産業
ポリマーセメント系塗膜防水材	Vコート	18kg缶・14kg箱	ケイエス防水工業(株)
防水シート	VシートS	1m×30m巻 厚0.8	ケイエス防水工業(株)

②配合と使用量

・Vコート(ポリマーセメント系塗膜防水材)

軽保護層 VコートA(樹脂9kg):VコートB(パウダー7kg):水0~2kg 塗布量0.5kg/m²

・シール材 333ml/本 カートリッジタイプ 使用量200ml程度/m²

1-4 下地条件

- ①施工面に突起物が無い事。
- ②H鋼フランジ面に著しい泥汚れや油脂の付着が無いこと。
- ③止むを得ず配管類を貫通させる場合は十分な強度を持ったものを使用し、堅固に固定すること。
- ④肉薄の塩ビ管や電配用コルゲート管に対しては必ず十分な強度を持ったサヤ管を使用し、堅固に固定すること。
- ⑤掛けセパはVシートの納まりに不具合が生じますので使用出来ません。(スクリュービット等の使用)

※断熱工法

KS-B1先やり・シール工法で断熱を施工する場合は、断熱材はセパ金物を取り付けた後、Vシートを施工する前に取り付けます。
(断熱材の厚さによりセパ受け金物のサイズが変わりますのでご注意ください。)

Vシート防水に於いては、打設された外壁コンクリート躯体とVシートが密着して防水効果・防水機能を発揮するためです

・断熱材の取付方法

- ①H鋼フランジ面及び矢板面にセパ受け金物を取り付けます。
 - ②断熱材をセパ受け金物に串刺しして取り付けます。
 - ③断熱材を取り付けた際、突き付けた断熱材の取り合いに極端な凹凸が生じた場合には薄ベニアを断熱材と互い違いに張り(串刺し)、薄ベニア突き付けの取り合いをガムテープ等を張りなだらかにする。
- 以上、①②③は建築工事(元請け工事)です。①②③の工程後、Vシート施工に移ります。

1-5 下地点検

- ・防水下地面に突起物が残っていないことを確かめ、H鋼表面に泥や汚れの付着があれば取り除く。

1-6 施工法

Vシート施工

(1)補助貼り

- ・役物周り(パイプ等)等必要箇所にシール材を使用して補助張りを行う。
- ・状況により、施工順序が立ち上がりシートの施工と前後する場合がある。

(2)立上りVシート施工

- ・H鋼フランジ面にシール材を点打ちする。
- ・Vシートを張り付け、手やヘラ等でVシートの重ね部等を押さえて落ち着かせる。
その際、重ね部からシール材が少しはみ出るようにする。
- ・はみ出たシール材はヘラ等で平にする。
- ・Vシート同士の重ねは、幅100mm以上でオーバーラップさせる。

(3)自主点検

別紙の自主点検表に従って各部の点検を行い、不具合があれば補修する。

(4)保護層施工

①立上り軽保護層

- ・Vコート(ポリマーセメント系塗膜防水材料)を調合し、ローラー等を使用してVシート表面に塗布する。
- ・調合は以下の通り。

VコートA(樹脂)9kg: VコートB(パウダー)7kgの割合でハンドミキサー等で良く混練し適量の水を加えて粘度を調整して使用材とする。 塗布量0.5kg/m²

2. 補修方法

- ①施工終了後にVシートに傷を付けたり、穴を開けてしまった場合は、周囲のささくれを切り取り、傷や穴よりも直径で300mm以上大きなシートをシール材で張り付ける。 ※既存シートと100mm以上オーバーラップさせる
- ②シート張り付け後、保護層を施工する。 塗布量0.5kg/m²

3. Vシート施工後の注意事項

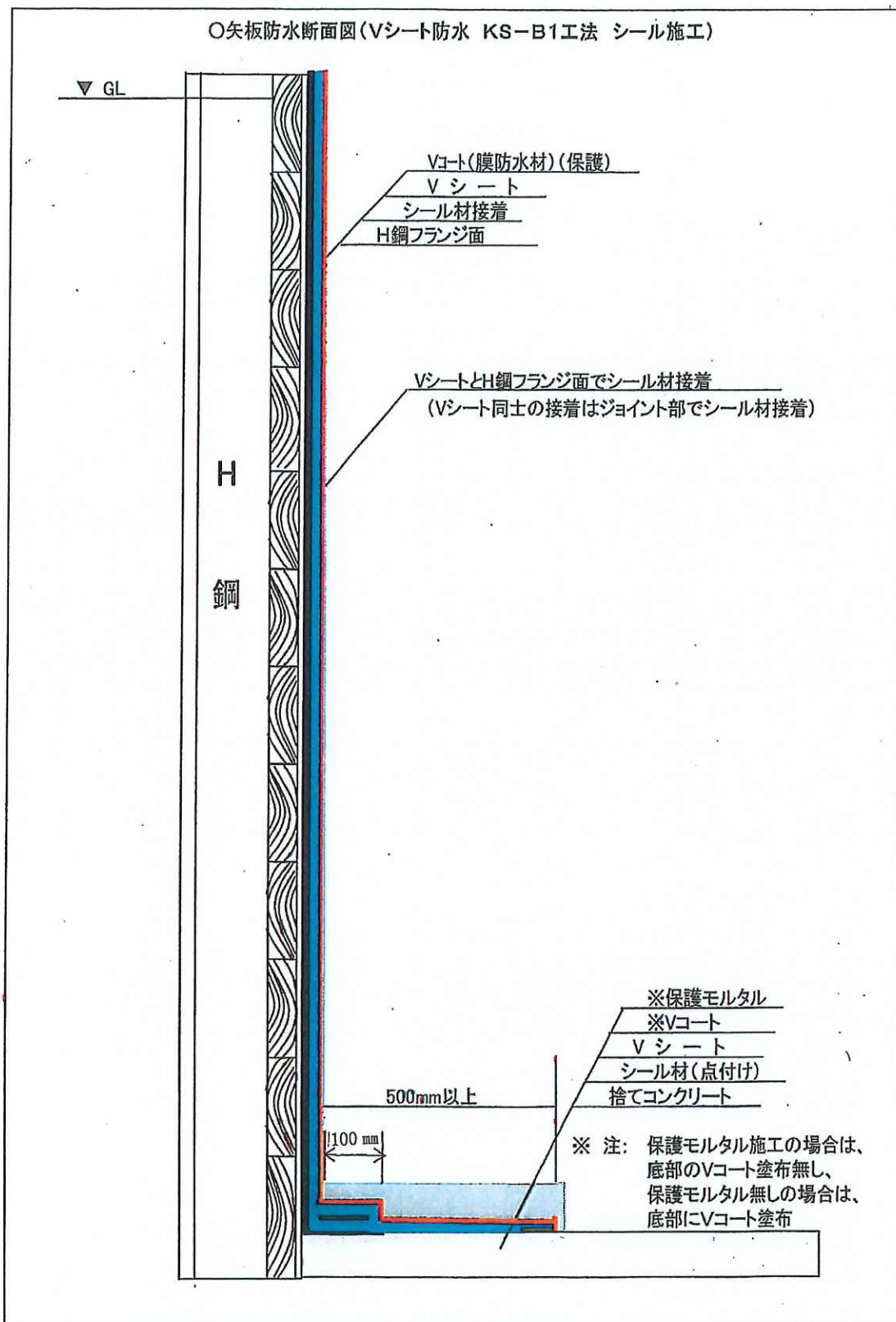
- ・Vシート施工後は12時間以上の養生期間を設ける。
 - ・モルタル・コンクリート打設時に、スコップ等でVシートをこすったりついたりしない。
 - ・有機溶剤、油脂類やこれらを含有する材料等をVシート上にこぼしたり付着させたりしない。
 - ・Vシート施工範囲付近で、溶接、溶断、ロウ付近等の作業を行う場合は、伝導熱、火災、火花等によってVシートに着火したり、溶解しないよう、事前に対策を行う。
 - ・Vシート施工範囲にアンカー等を打ち込んだり、ビスを打ったりしない。
 - ・これらの他にもVシートを傷つけるような行為は厳禁。
- ☆Vシートを傷付けると漏水事故につながる可能性があるので十分な注意が必要。
- ☆止むを得ずダメ残しとなる場合は、次回施工時にシートをオーバーラップさせる分+α(巾300mm程度)には保護層を施工しない。また、汚れたり傷が付いたりしないよう十分に養生する。

4. 安全管理

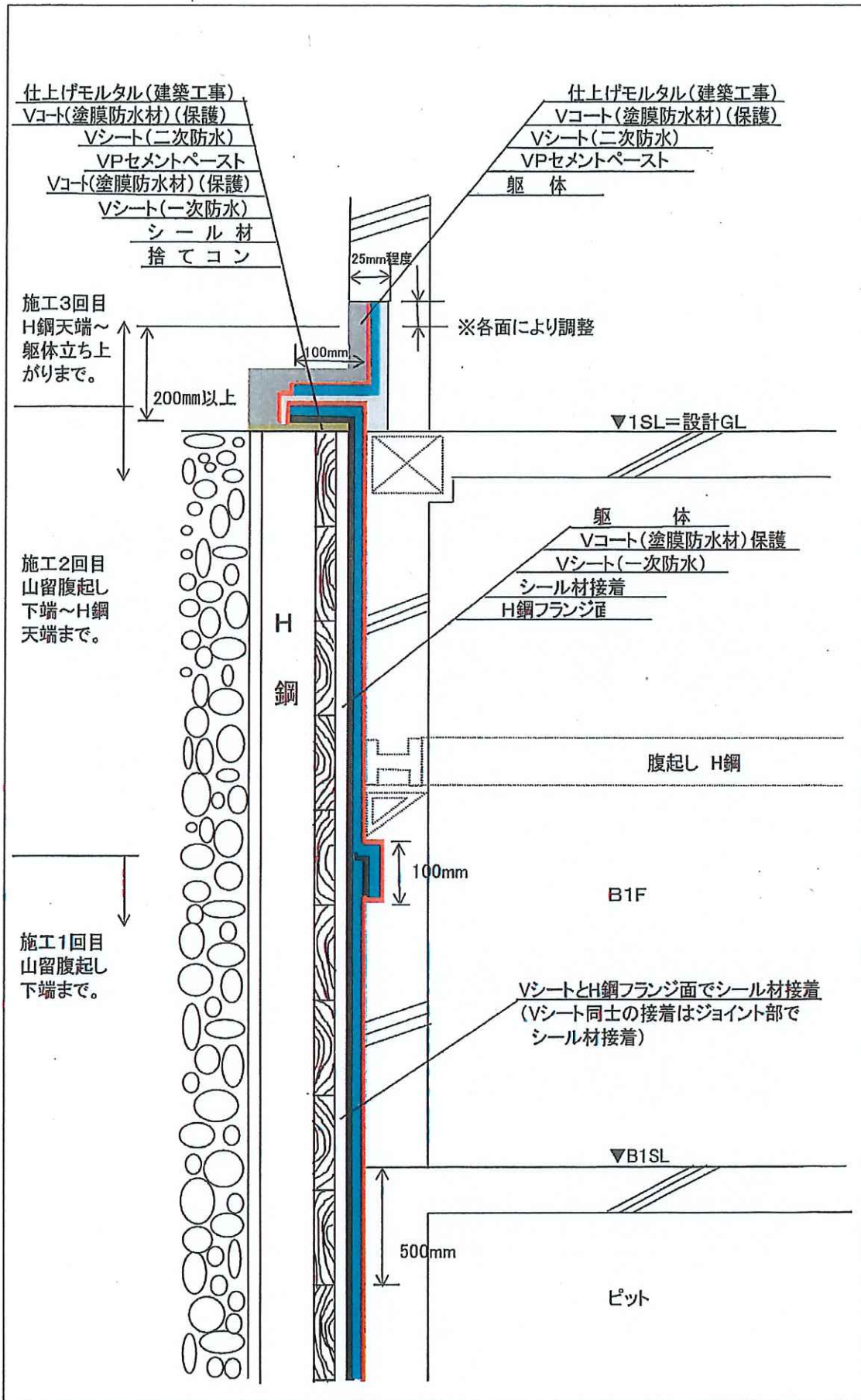
作業所内に於いては、下記に示す諸事項に注意しながら、万全の安全対策を考慮して防水工事の施工に当たる。

- ①作業所が実施する朝礼、安全協議会及びパトロール等には積極的に参加し、安全作を推進する。
 - ②作業所内の安全に関する諸規定を遵守する。
 - ③毎日の作業前にKYミーティングを実施する。
 - ④毎日の作業終了時には、材料関係の整理整頓を行うと共に残材を所定の場所に片付ける。
- ☆その他、安全上不具合が発生するような事態があれば、速やかに職員に報告し善後策を講じる。

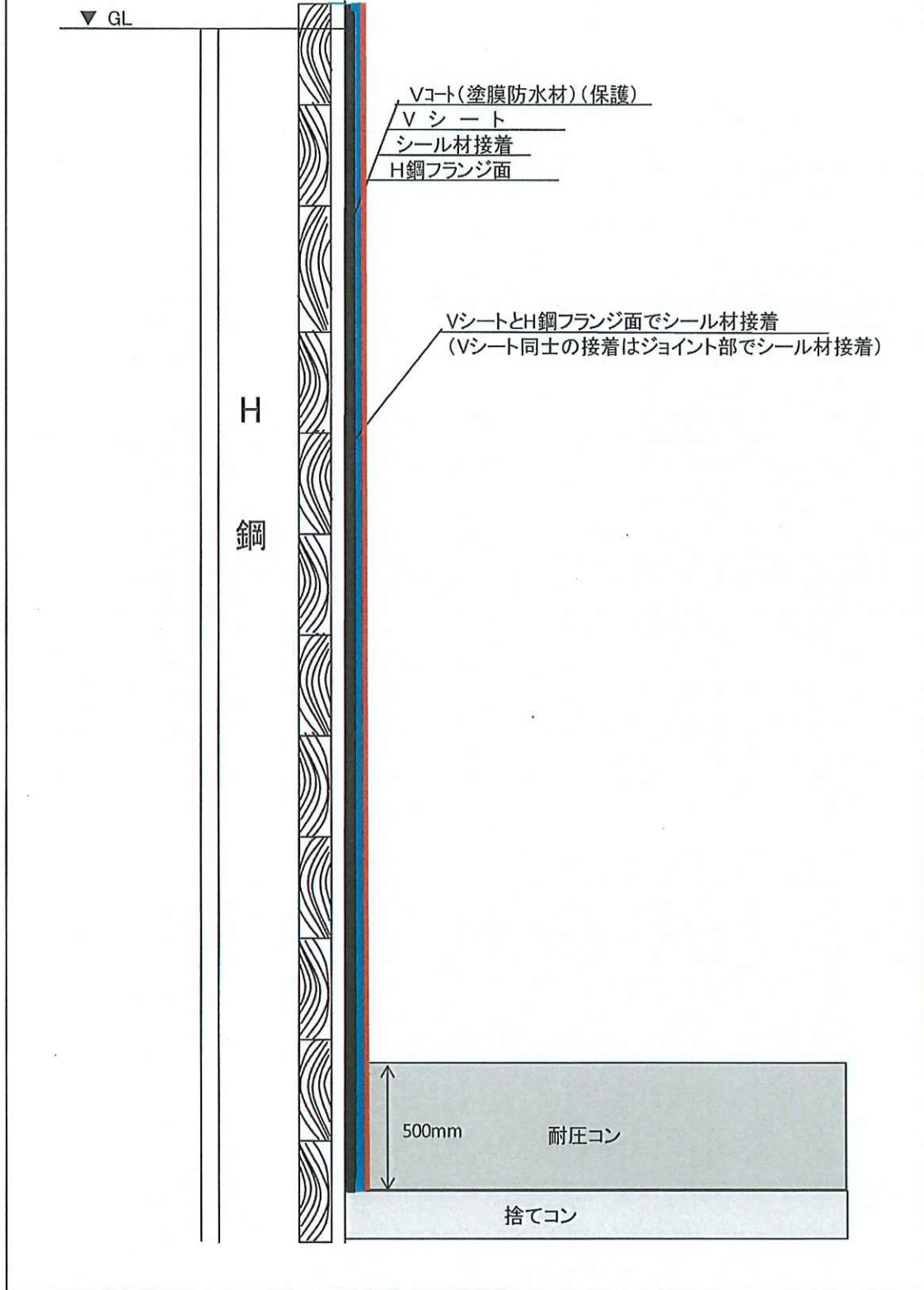
○矢板防水断面図(Vシート防水 KS-B1工法 シール施工)



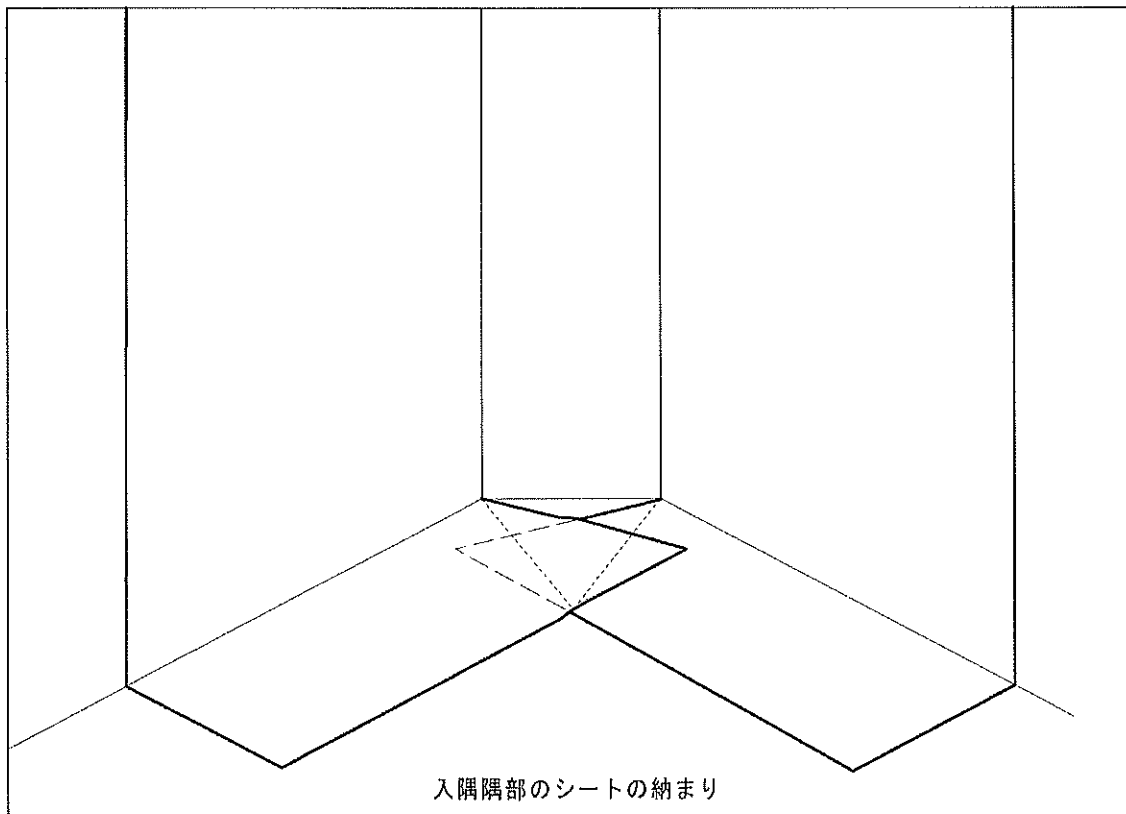
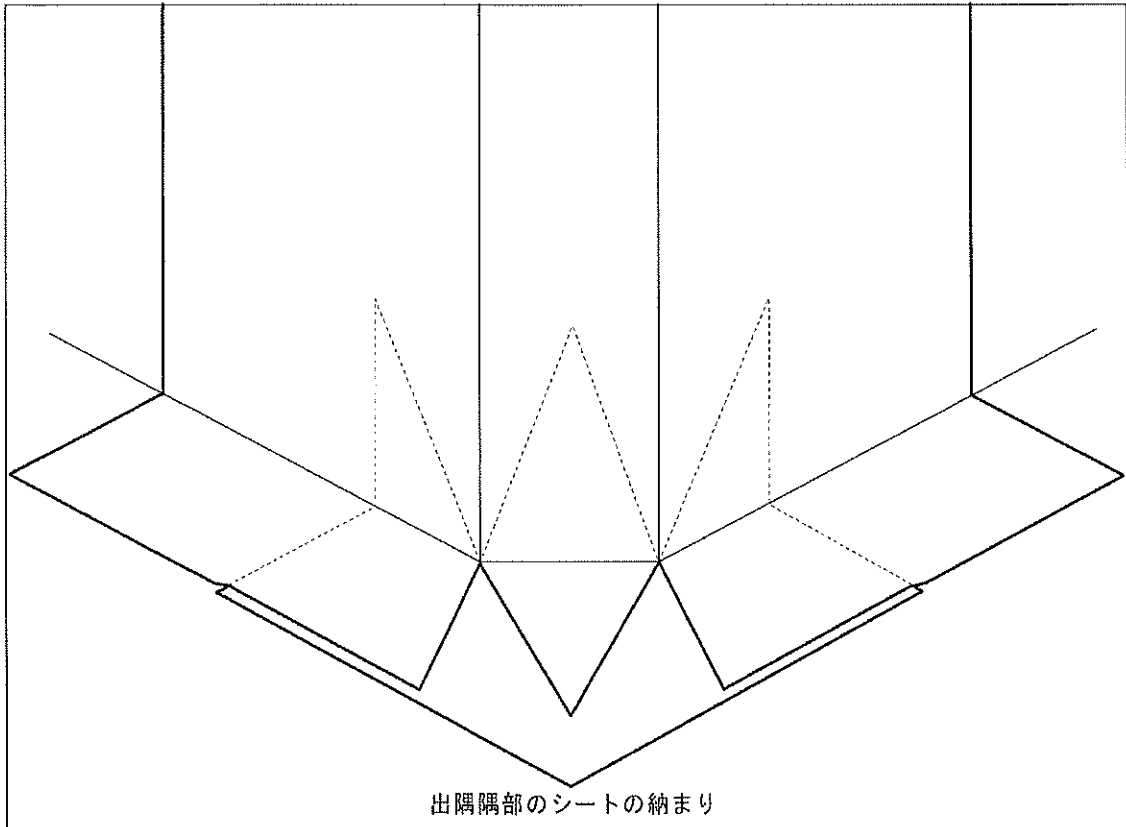
※ KS-B1工法(先やり防水)において、底部の返し W=500は基本的な納まりであって条件等によっては、その限りではありません。



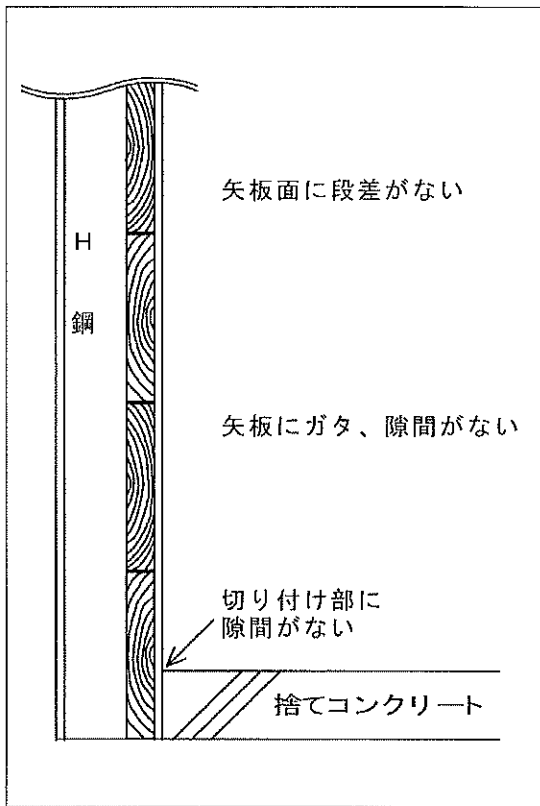
○矢板防水断面図(Vシート防水 KS-B1工法 シール施工)



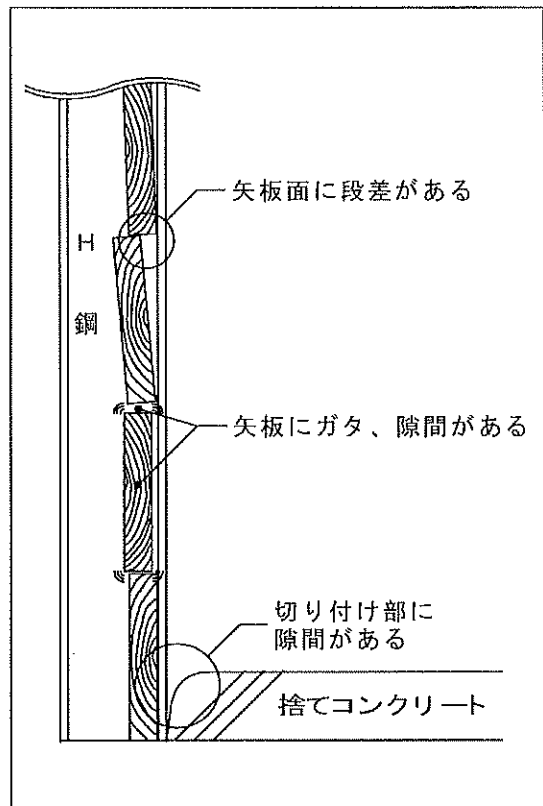
※ KS-B1工法(先やり防水)において、耐圧コン厚さ $t=500$ は基本的な納まりであって条件等によっては、その限りではありません。



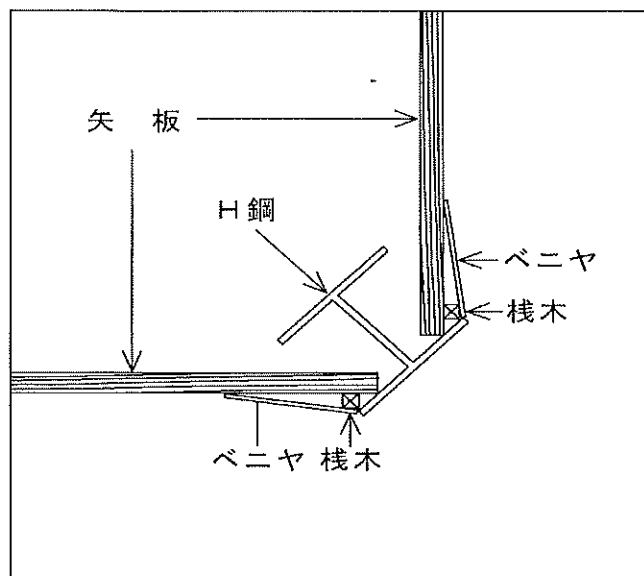
○ 下地注意事項



良い例

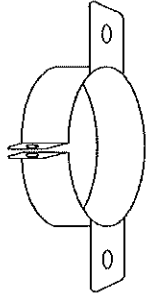


悪い例

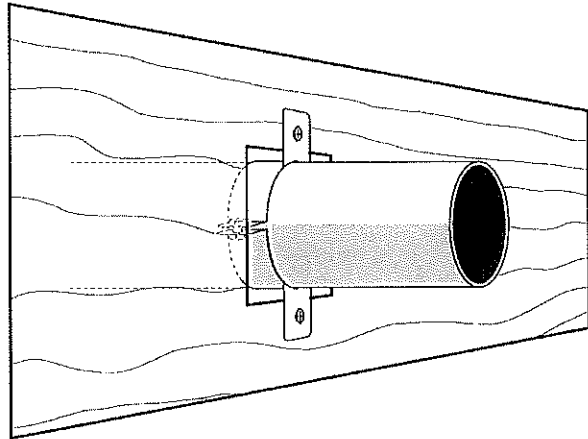


出隅部分に段差の程度

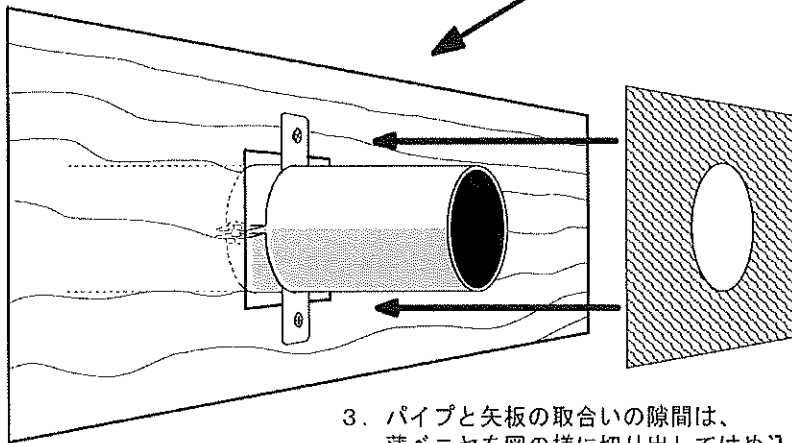
○矢板面を貫通するパイプの固定方法



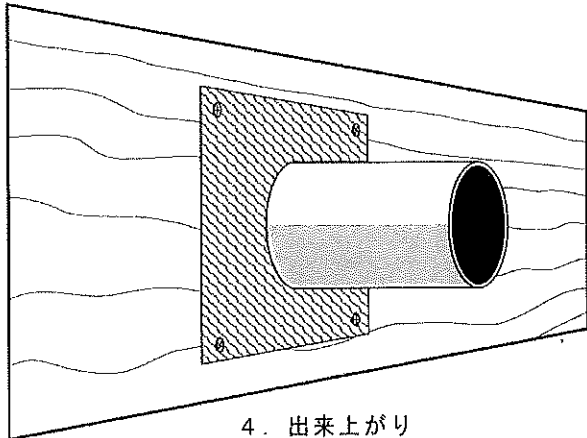
1. この様な固定金具を用いる



2. 矢板に穴を開けてパイプを通し、
図の様に、金具を矢板の内側に入れて固定する。

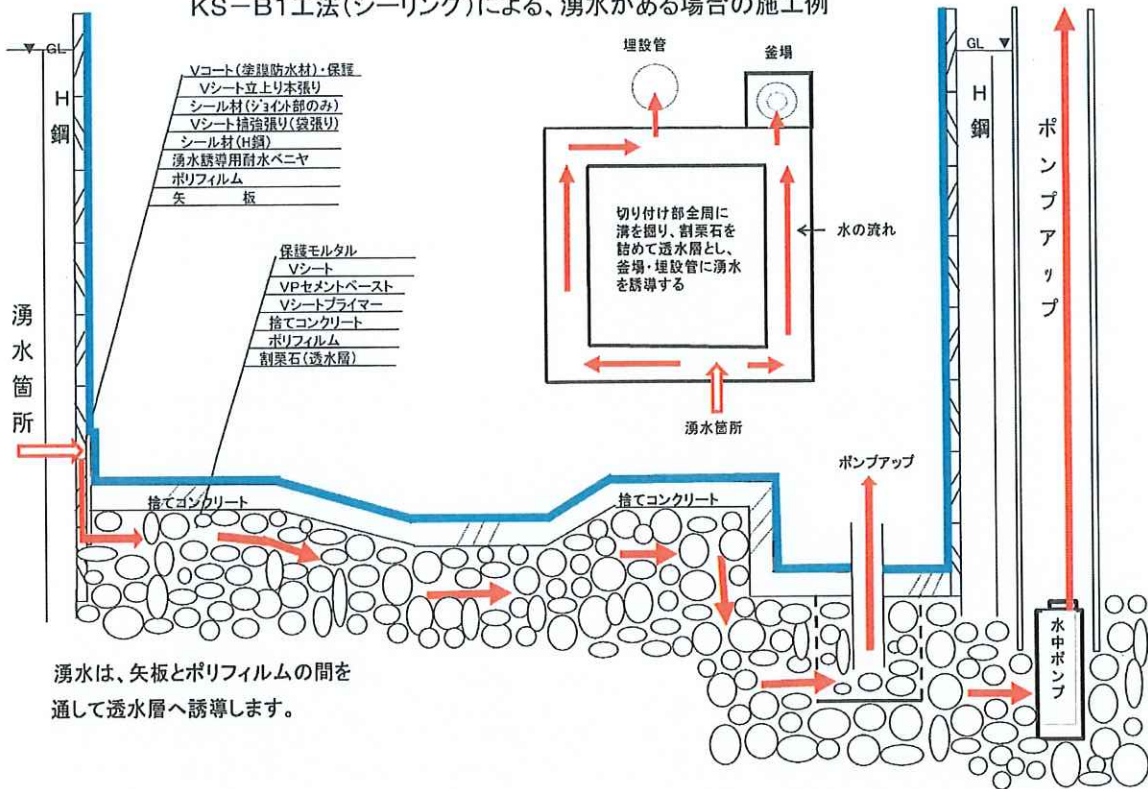


3. パイプと矢板の取合いの隙間は、
薄ベニヤを図の様に切り出してはめ込み、木ねじで固定する。

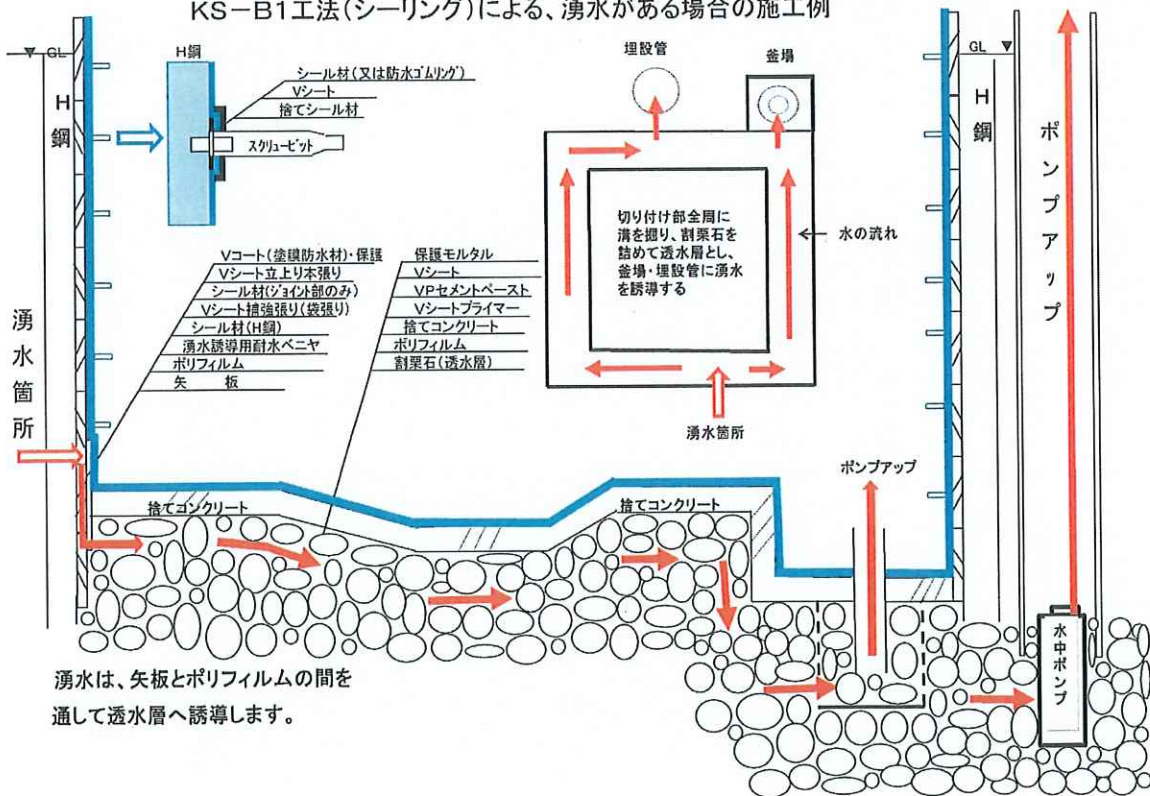


4. 出来上がり

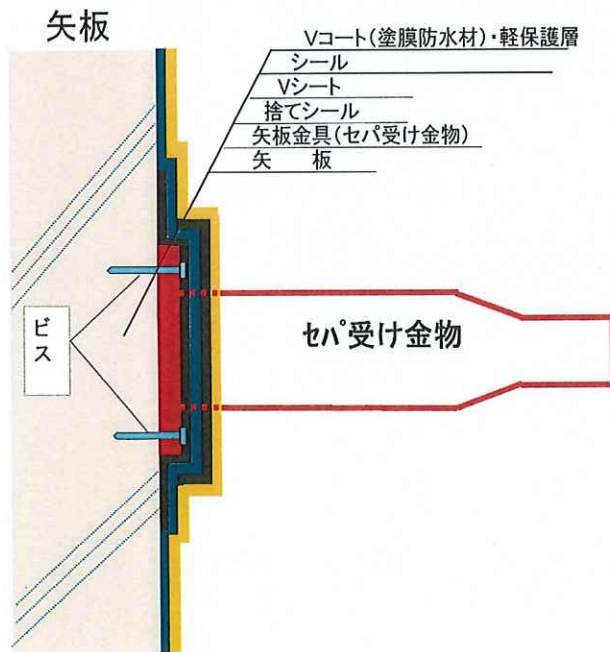
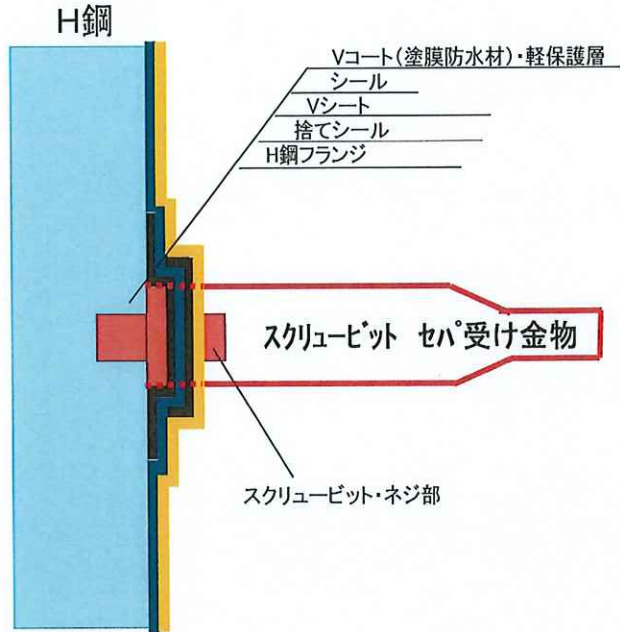
KS-B1工法(シーリング)による、湧水がある場合の施工例



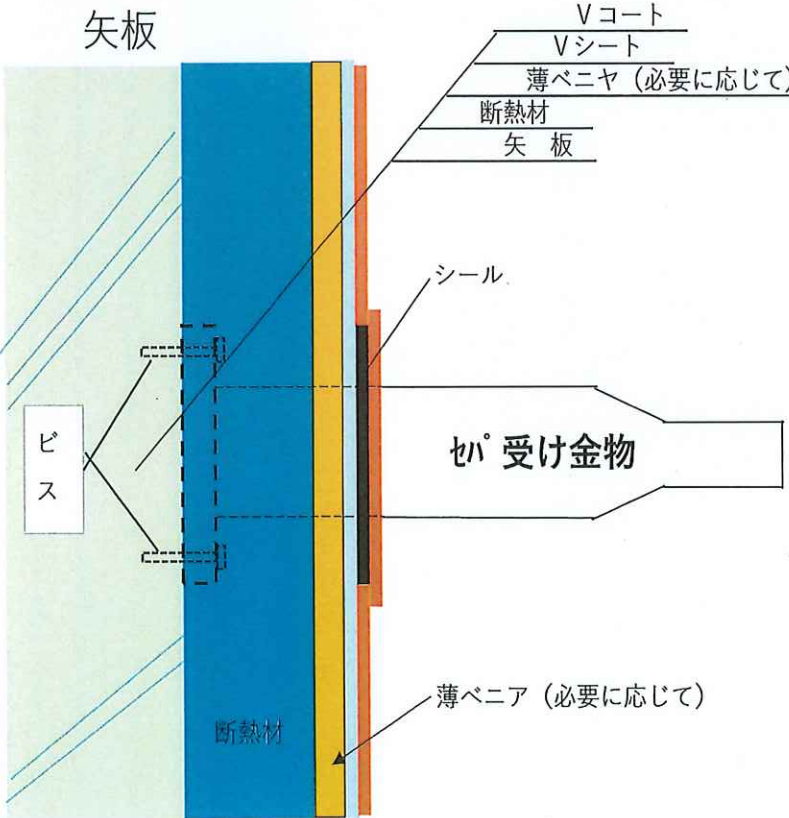
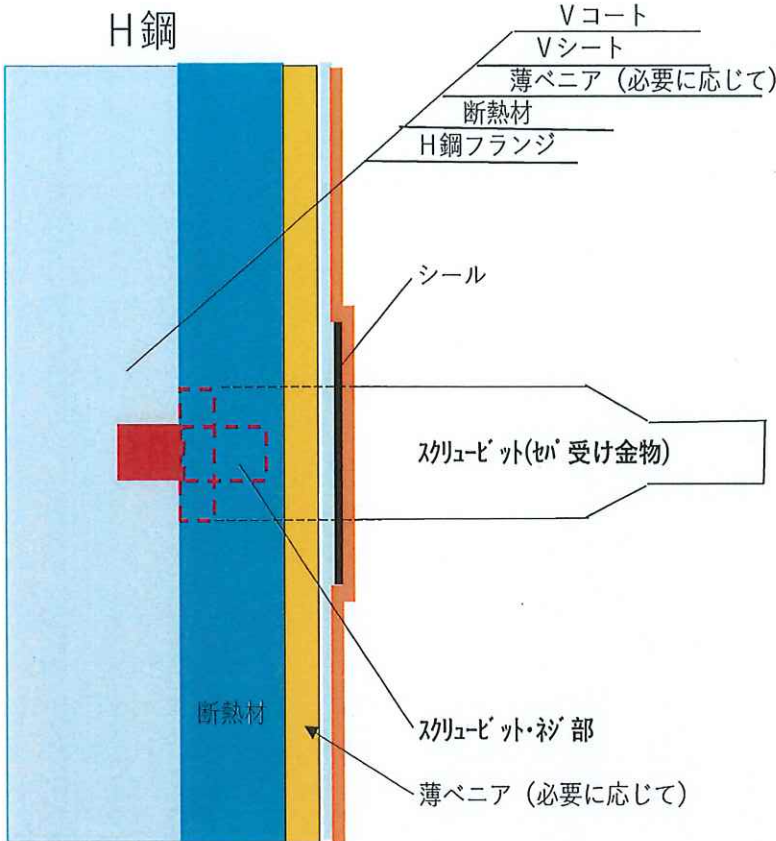
KS-B1工法(シーリング)による、湧水がある場合の施工例



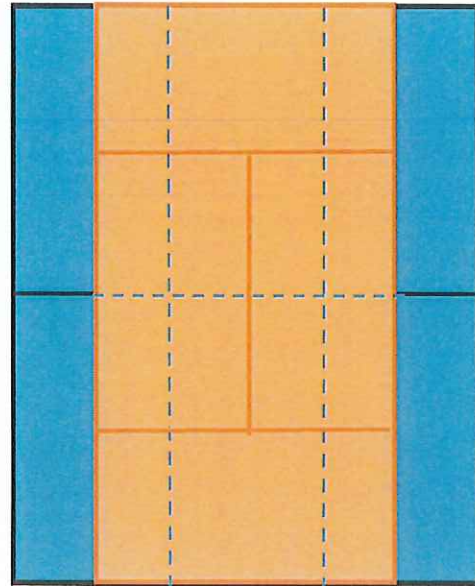
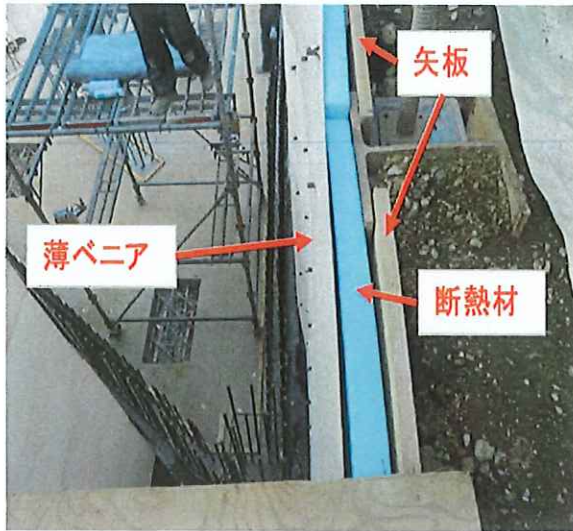
セパ受け金物廻り Vシート防水納まり図



断熱仕様セパ受け金物廻り Vシート防水納まり図

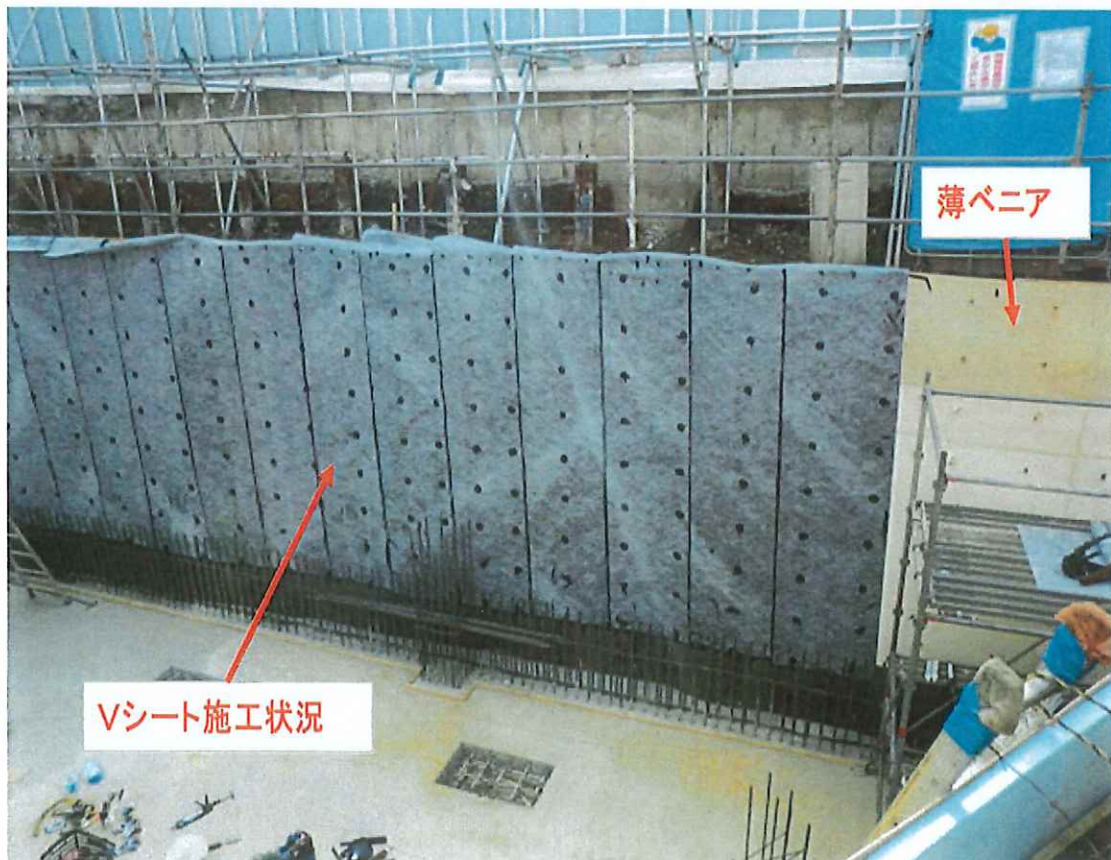


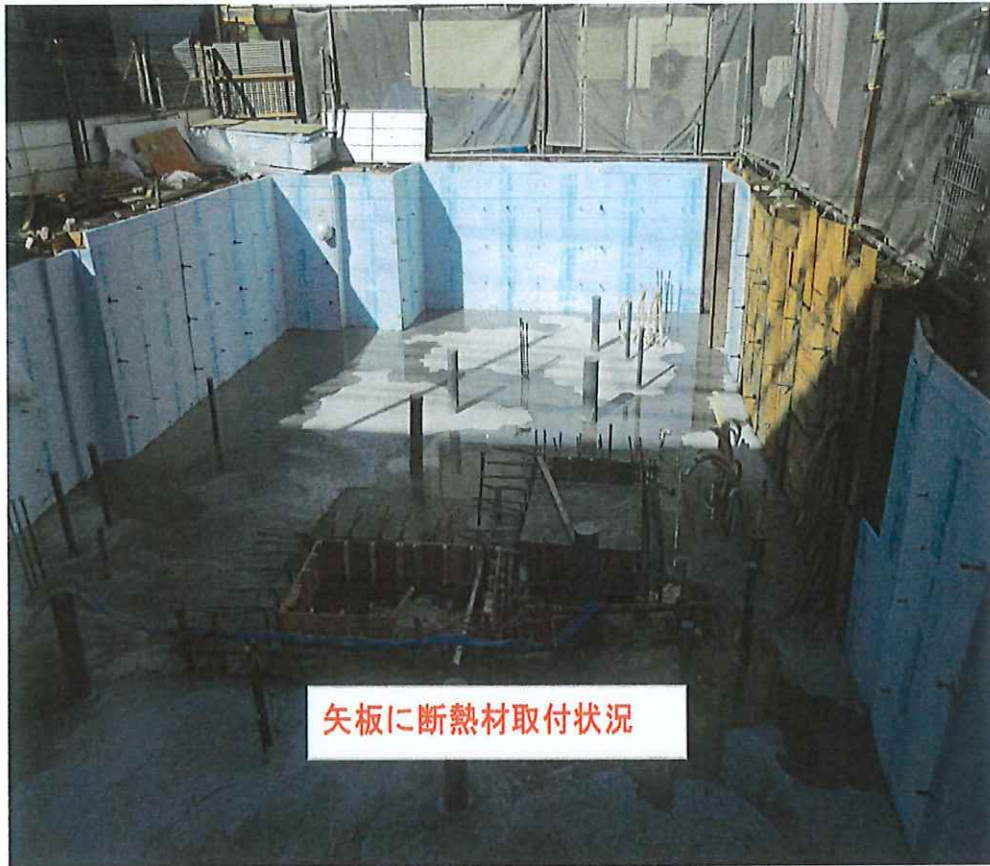
KS-B1先やりシール工法(断熱仕様)



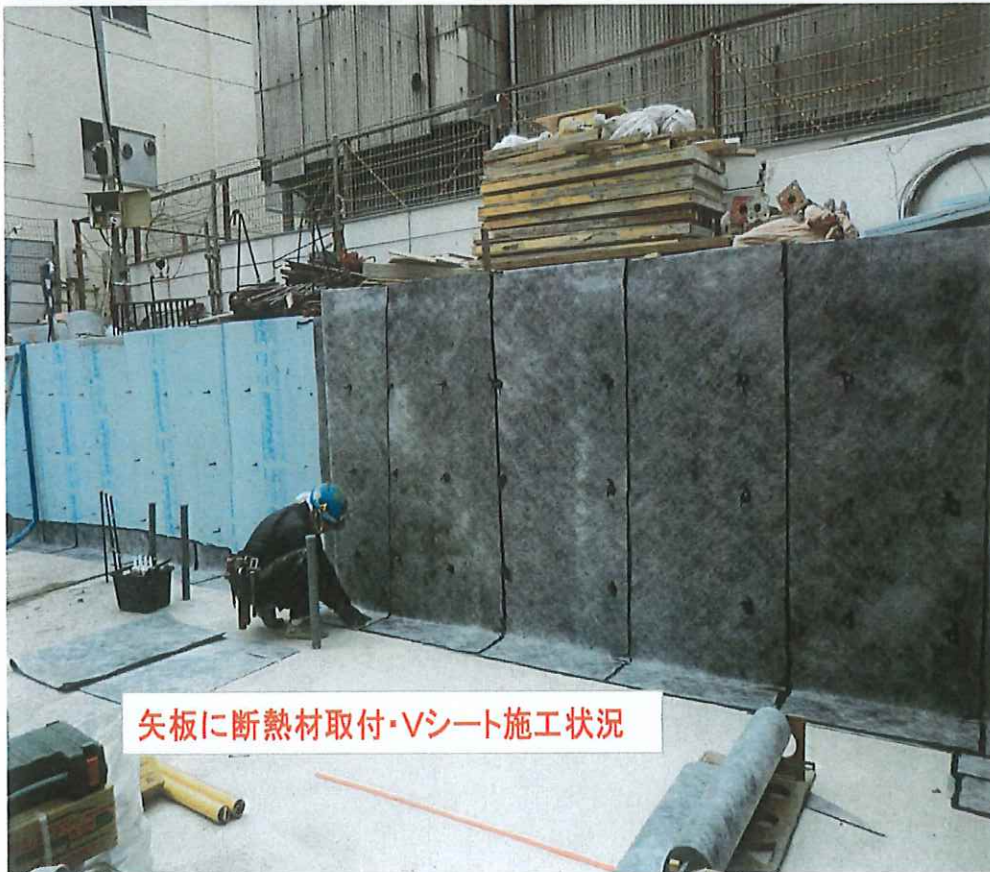
断熱材 薄ベニア

断熱材と薄ベニアを互い違いに張るようにします。





矢板に断熱材取付状況



矢板に断熱材取付・Vシート施工状況